

風とおしの良い夢のあるまちづくり

**ながら俊一** 通心

平群町議会議員 vol.14  
ながら俊一事務所  
〒636-0925  
奈良県生駒郡平群町越木塚 623-3  
TEL・FAX 0745-45-3955



ごあいさつ

平素は、町議会に対しましてご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。  
令和4年第5回平群町議会定例会が、9月2日～9月22日まで、開催されました。通例の9月定例議会は、昨年度の町運営を振り返る大変重要な定例議会です。  
この数年間にわたるパンデミックになってしまった新型コロナウイルス感染症の影響下で町事業・町運営をふりかえる定例議会です。  
現状、誰がなってもおかしくない状況が続いています。『新しい生活様式』など、環境の変化に対応し、『町民の皆さまに、安心・安全なまちづくり』を心掛け、発信に努めて参ります。  
平群町議会のご報告をさせていただきます。

令和4年 第5回 9月 平群町議会定例会

第5回（9月定例会）	
報告案件 （4件 報告第39号～42号）	職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例についてなど
諮問案件 （2件 諮問第2号～3号）	人権擁護委員候補者の推せんにつき意見を求めることについてなど
認定案件 （11件 認定第1号～11号）	令和3年度平群町一般会計歳入歳出決算の認定についてなど
発議案件 （2件 発議第3号～4号）	子ども医療費助成制度に係る現物給付方式による拡充などを求める意見書（案）など

（※明細は議会だよりを参照してください）

第5回定例議会（9月議会）は、本議会以外に委員会付託として、決算審査特別委員会（一般会計、各特別会計・各事業会計）がありました。  
諸般の報告では、総務建設委員会、文教厚生委員会、新型コロナワクチン接種状況についてなど報告がありました。  
総務建設委員会、文教厚生委員会（令和4年8月29日召集）の案件については、本年度も、9月定例会の開催前に委員会を招集し、令和3年度の執行後における政策評価についてです。各政策評価については、平群町政策基本体系を基に進められ、総務建設委員会では55事業、文教厚生委員会では60事業あり、合計115事業です。

議案第39号～40号については、条例の一部を改正する条例です。  
議案第39号は、地方公務員の育児休業に関する法律等の改正に伴う改正です。  
議案第40号は、地方税法の改正に伴う条例改正です。

議案第41号は、令和4年度平群町一般会計補正予算(第4号)についてです。  
歳出で主なものは、公債費の繰り上げ償還です。

歳入で主なものは、今年度算定額の確定に伴う地方特例交付金、普通交付税、及び臨時財政対策債の調整を行い、繰越金等、収支の均衡を図ることになります。

議案第42号は、平群町国民健康保険特別会計補正予算(第1号)についてです。  
国民健康保険基幹システムの更改によるシステム構築などです。  
議案第43号は、平群町介護保険特別会計補正予算(第1号)についてです。  
諮問案件第1号～2号については、人権擁護委員の選任についてです。

委員会付託議案  
決算審査特別委員会

令和3年度一般会計決算 概要

歳入総額(繰越含)	8,359,533,566円
歳出総額(繰越含)	7,910,042,855円
形式収支	+449,490,711円 (A)
翌年度繰越財源	49,483,000円 (B)
☆実質収支額	+400,007,711円 (C=A-B)
単年度収支	+193,357,134円(C-R.2年繰越金 206,650,577円)
☆実質単年度収支	+594,788,192円 (財政調整基金の増減、繰り上げ償還を含む)

(財政調整基金積立 112,000千円 取崩 なし 地方債繰り上げ償還 289,431千円)  
実質単年度収支が、黒字化になりましたが、経常収支比率、実質公債比率、将来負担比率は、以前、落ち着ける状況ではありません。このコロナ禍の時勢で、うまく運営して頂く事を祈るばかりです。  
その他の認定第2号から11号までの認定については、歳出・歳入状況は、健全であると感じました。

発議案件について  
発議第3号については、子ども医療費助成制度に係る現物給付方式による拡充等を求める意見書(案)については、可決されました。  
発議第4号については、安倍元首相の「国葬」の中止を求める意見書(案)については、否決されました。

9月議会、私が一般質問しました、内容を、ご報告いたします。

一般質問

【主旨説明】

私の議員活動も、一期目の最終年度をむかえ、『初心忘るべからず、今の時勢を鑑み、町民のおもいを議会に届ける』との考えを基調に質問してまいりました。また、本町は、コロナ対策などを踏まえ、財政状況を照らし合わせながらの町政運営であると感じています。  
この9月定例議会は、決算審査特別委員会など、令和3年度を振り返り、令和5年度に向けて構築できるチャンスと感じています。町政は、時代の流れや変化を敏感に感じ、止まることなく、先の展望を見据えながら進めるべきと考えます。この観点から質問させていただきます。

## 1. 学び、子ども達を支える

## 質問要旨

GIGAスクール構想・ICT教育と日進月歩の教育環境に対応するため日々邁進して頂いていると感じていますが、端末活用についての学校間格差、教員間格差が目立ち始めていると感じています。導入にあたり、他の市町村の動向を見据えての取り組みと感じていますが、今後の対応をお聞かせください。

次に、子供たちの放課後活動について質問します。教員の働き方改革を考慮し、本町に見合った取り組みを試みていると考えますが、指導者の質の確保のため、指導者資格の取得、研修の実施が不可避であると考えます。また、受益者負担の原則は、理解できますが、保護者の金銭的負担が増加することが見込まれることから、貧困家庭の子ども達の機会を失わないための支援をどのように考えているのかお聞かせください。

最後に、平群町教育大綱の文面にある新たな教育施策を交え、学校、家庭、地域、行政の一層の連携のもと、新たな時代に向けた「まちづくり」へと繋がっていくことを期待し、推し進めてまいりますとありますが、今後の展望をお聞かせください。

## 答 弁 (教育委員会総務課)

長良議員のご質問の1項目、「学び、子ども達を支える」についてお答えします。

1点目の、ギガスクール構想・ICT教育に関して、端末活用で学校間格差、教員間の格差があり、今後の対応についてのお尋ねですが、確かに個々の教員での経験、知識等の違いから個人差があり、授業等での活用に差が生じている実態があることは認識しています。このことから令和3年度ではICT教育に精通した指導主事に加え、ICT支援員を1名配置し、令和4年度には、各校のエバンジェリストを複数名体制に変更（各校2名）、実施体制の更なる充実を図り、本年8月30日には、町教育委員会主催で全教員を対象にした、ICT教育の実践的な研修会を開催し、教員のICTスキルに合わせ、初級、応用編などに分け、実践事例の紹介や、教育ソフトの活用、教員間同士の教え合い、意見交換などを行いました。参加教員からは、大変有意義な研修であったなどの意欲的な意見が出されておりました。引き続き、教育委員会、各学校が連携を密にし、系統的な研修を重ねる等、更なるICT教育の充実、強化を図ってまいります。

2点目の、子供たちの放課後活動について、指導者の質確保、受益者負担、保護者の金銭的負担の増加、貧困家庭の支援などへの対応はとのお尋ねですが、議員ご質問の件は、国の方針により進められている「学校部活動の地域移行」についての件であると思いますが、7月19日に県の説明会が開催され、国の方針、スポーツ庁からの提言内容の説明がありました。現在の所、令和5年度から休日の段階的な地域へ移行の方針が示されているのみで、県でも情報把握に努めている段階で、具体的説明はありませんでした。一方で、各市町村からは、移行に対する課題、懸案事項など意見が数多く出されました。議員ご質問の指導者の件、保護者負担の件などの具体的詳細については、今後、国からの情報を元に、県と市町村で情報共有し、連携して取り組んでいくことが確認されました。

3点目の、平群町教育大綱について、今後の展望をお尋ねですが、今年度、第2期平群町教育大綱を策定し、先般、議員の皆様方にも配布をさせて頂いています。これは、第1期の大綱の進捗、奈良県大綱策定を踏まえ、時代の変化に応じた新しい教育施策全般について、細かく検討協議を重ね、教育委員会、総合教育会議でのご審議を経て、策定したものです。この第2期教育大綱では、「未来に生きる子どもたち育成プロジェクトinへぐり」をスローガンに、「笑顔でつながる平群の学び」をキーワードとしています。学校教育、社会教育・社会体育、文化財等、多岐に渡る教育施策を列挙しています。引き続き、この大綱で定める事項について、教育委員会、学校、こども園、地域と連携して、取り組みを進めてまいります。

## 2. ごみ減量化・リサイクル推進について

## 質問要旨

本町の清掃センターは、開設以来30年を経過しているため施設全体の老朽化が進み、特に焼却炉の痛みが激しく、大規模な改修が必要であるが予算確保が難しく緊急を要する部分的な修繕にとどまっている状況が続いています。廃プラスチック類・ペットボトルなどを分別収集し、ごみ減量化を進めていますが、民間では、飲料メーカーとスーパーとが共同し、「ボトルto ボトル」と呼ばれる「水平リサイクル」という取り組みがあるそうです。「水平リサイクル」は、ももとの製品を原料にして同じものを作り出すリサイクルです。新たな石油原料をほとんど使うことなく、半永久的にペットボトルを使い続けることができる「理想的なリサイクル」として、飲料メーカーが積極的に取り組み、関心を寄せる自治体や企業が増えているとの事です。施設維持のため、様々な課題を克服し、町民の皆様のご理解が必要と感じますが、今後の取り組みをお聞かせください。

## 答 弁 (住民生活課)

長良議員の2点目のご質問の「ごみ減量化・リサイクル推進について」お答えします。

平群町ではペットボトル・廃プラスチック・発砲スチロール製食品トレイの分別収集、缶・ビンのコンテナ収集、使用済小型家電の回収をしています。有価物集団回収についても助成事業をおこなっています。役場東側公用車駐車場にはリサイクルステーションを設置し、ペットボトル・廃プラスチック・発砲スチロール製食品トレイや紙資源のリサイクルをおこなっており、町の北部地区においてもリサイクルステーションの開設に向け準備を進めております。食器類や子供服・用品等の窓口での引き取りや剪定枝の粉砕機の無償貸し出しをし、リサイクルごみの減量化にも取り組んでおります。なお、収集回収された廃プラスチックについては、事業者へ引き渡し、その後、破砕して固形燃料になっており、トレイ類については、熔融・減容処理し角棒状にして、売却して緩衝材の原料となっております。ペットボトルについては、圧縮して業者へ売却して洋服となっております。

また、令和4年4月には平群町食品ロス削減推進計画を策定し、「フードドライブ」の窓口を常設化し、家庭での食品ロス削減への実践を広報等で啓発するなど食品ロス削減へ向けて展開しております。生ごみ処理機・コンポスト等購入を補助し、台所ごみ減量化を進めています。剪定枝については、業者へ委託して再資源化を図っています。「ボトルtoボトル」の取り組みについても、既にペットボトルのリサイクル化も行っておりますが、本町においても取り入れられるか検討してまいります。

捨てたらごみ、分ければ資源として、引き続き啓発に努めごみの減量化に向け、住民の皆様への働きかけを行ってまいります。

## 3. 公報広聴事業について

## 質問要旨

本町のホームページは、令和3年3月に全面リニューアルし、アクセス数も増え、役割を果たしていると思います。令和3年度政策基本体系表の成果を表す指標からも充実していると感じられます。

携帯電話・タブレットは、大人から子供までが持ち歩く時代になり、簡単にアクセスでき、どこからでも情報を集めることのできるツールとなりました。これからのサイト運営の展望をお聞かせください。

## 答 弁

(政策推進課)

長良議員の3項目の、「広報広聴事業について」の、ご質問にお答え致します。  
本町の公式ホームページについては、これまで「緊急情報」への掲載以外は、業者に更新作業を委託していましたが、リニューアルにより、掲載までリアルタイムで即日発信が可能となりました。

また、住民生活においてもスマホやタブレットを活用し、情報収集される方が増加しており、今後、ますます掲載内容の充実やSNSなどの媒体を活用していく必要性を感じているところでございます。

今後の「サイト運営の展望」については、平群町の各種制度などの行政情報を迅速に分かりやすく住民に伝えることは当然として、まちの話題についてもSNSを活用し情報発信に努めたいと考えております。

また、SNSは今後も行政と住民生活をつなぐ有効なツールとなることから、LINEやフェイスブックの登録数を増やす取り組みを推進して参りたいと考えております。

## 4. これからのまちづくり

## 質問要旨

奈良県の重症警報を受け策定した「緊急財政健全化計画」を確実に実行し、自主財源や奈良県の支援を受け、地方債の繰り上げ償還を実施しました。その結果、将来負担比率・実質公債比率・経常収支比率は、下がりました。今後も、この取り組みを続ける事で安定した財政運営ができることと思います。

ただ、本町は、売却予定の土地が売れない、老朽化施設の補修・解体撤去、道路幅拡張・維持管理など大きな予算がかかる案件がたくさんあります。予算に限りがあり、緊急性を要する案件より、随時執行するとの答弁が目立ちますが、先送りばかりでは、まちづくりとは思えません。国・県に実情を訴え、パイプを太くし、ヒントを頂くことが必要と感じます。現状をお聞かせください。

## 答 弁

(政策推進課)

長良議員の4項目「これからのまちづくりについて」の、ご質問にお答え致します。

町財政は、緊急財政健全化計画の取組を実施し、令和3年度決算において一定の成果が表れており、令和4年度においても(今議会で補正予算した)繰上償還を実施し、財政健全化の取組を確実に推進し、しっかりとした財政基盤の確立に向け取組んでおります。

議員お述べの通り、老朽化した公共施設の改修や道路整備、扶助費の増加、定年延長による人件費の増加が想定され、公債費もまだまだ高い水準で推移するなど、行財政を取巻く課題は山積しており、これらの課題を解決していくためには町単独費では限界があります。

やはり国・県などの補助金の活用を実施していく必要があり、これまで、県との関係においては、「重症警報」に伴い合同勉強会による技術的な支援を受けるとともに、常に何か事業が想定された場合には、補助金、交付金などの相談を行い、取り組んでいるところでございます。

今後も、奈良県と良好な関係を築きながら、平群町のまちづくりに支援いただけるよう取り組んでまいりたいと考えております。

## 終わりに

令和4年第5回定例会議は、私の議員活動の中で、いい経験させて頂きました。まだまだ、経験不足の私ですが、令和3年度決算審査特別委員会委員長をさせて頂くことになったからです。この特別委員会は、3月予算委員会、9月決算委員会と一年を通じて大変重要な特別委員会であり、この決算委員会は、町行政の執行結果を検証し、次年度に繋げる分岐点的役割を担っているからです。なぜなら、各担当課の主幹も出席し、各委員の質問に的確に答弁し、次年度の糧にしていくためです。それが故、委員長の立場から流れを読むためにも端から端まで対応するための準備をし、委員会を進めていかねばなりません。その役割を終えると、事務局の協力のもと委員長報告の作成にかかります。長時間にわたる質問を要約するには、委員会メンバーの質問を精査する必要があり、各委員の顔が浮かび、なかなか進みません。また、それぞれの質問には、理由があり、今後の施策に繋がるからです。結果的に報告書は、16ページになり、報告書の読み上げは、1時間を超えてしまいました。委員長の経験は、視点を見直す事ができるチャンスになり、本当に勉強になりました。

秋の訪れを感じる季節となりました。残念ですが、Whitコロナの生活は、今後も続くことと思います。しかしながら、これから始まる秋の行事も感染対策を考慮し、開催できればと感じます。以前同様に進めることは、叶いませんが、『新しい生活様式』を考慮し、前進できれば幸いです。

これからも、コロナ禍の中での生活が続くと考えますが、議員活動を通じて皆さまに喜んで頂けるように邁進してまいります。これからも、よろしく願いいたします。

皆様の声を、ぜひ、  
ながら俊一にお聞かせください！

ながら俊一事務所

〒636-0925

奈良県生駒郡平群町越木塚 623-3

TEL・FAX 0745-45-3955

<https://nagara-shunichi.com/>